



Informatica® Cloud Application Integration
April 2023

電子メールコネクタガイド

Informatica Cloud Application Integration 電子メールコネクタガイド
April 2023

© 著作権 Informatica LLC 2021, 2023

発行日: 2023-06-27

目次

序文	4
第 1 章：電子メール接続	5
電子メールコネクタの概要.....	5
電子メール接続の概要.....	5
基本接続プロパティ.....	6
電子メール接続プロパティ.....	6
電子メール接続のパブリッシュ.....	8
プロセスまたはガイドでの電子メールオブジェクトの使用.....	10
プロセスまたはガイドでの電子メール接続の使用.....	11

序文

電子メール接続を作成し、プロセスまたはガイドで使用方法については、『電子メールコネクタガイド』を参照してください。

第 1 章

電子メール接続

この章では、以下の項目について説明します。

- [電子メールコネクタの概要, 5 ページ](#)
- [電子メール接続の概要, 5 ページ](#)
- [基本接続プロパティ, 6 ページ](#)
- [電子メール接続プロパティ, 6 ページ](#)
- [電子メール接続のパブリッシュ, 8 ページ](#)
- [プロセスまたはガイドでの電子メールオブジェクトの使用, 10 ページ](#)
- [プロセスまたはガイドでの電子メール接続の使用, 11 ページ](#)

電子メールコネクタの概要

アプリケーション統合は、Informatica Intelligent Cloud ServicesSMの外部のサービスおよびデータソースとの統合に役立つ複数のコネクタを提供します。ビジネスプロセスを自動化するときは、電子メール通知を送信することをお勧めします。例えば、オーダー管理プロセスでは、オーダーの配達日を知らせるために顧客に電子メール通知を送信したい場合があります。この要件には、アプリケーション統合電子メールコネクタを使用できます。

電子メールコネクタを使用して、電子メールサーバーから指定された受信者のリストに電子メールを送信します。電子メール接続を作成した後、プロセスまたはガイドのサービスステップでを使用して電子メールを送信できます。

電子メールコネクタを使用して、配布リストに電子メールを送信することもできます。

電子メールコネクタは、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) をサポートしています。電子メールを安全に送信するために、電子メール接続で Transport Layer Security (TLS) および Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを設定することもできます。

電子メール接続の概要

電子メール接続を使用して、電子メールサーバーから指定された受信者のリストに電子メールを送信します。

電子メール接続を作成した後、接続を検証、保存、およびパブリッシュできます。

基本接続プロパティ

次の表に、接続の作成ページで設定可能な基本プロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer での識別に使用される、電子メール接続の一意の名前。 名前は英字で始まり、英字、数字、ハイフン (-) のみを含めることができます。
場所	接続を保存するプロジェクトまたはフォルダの場所。 【参照】 をクリックして場所を選択します。 [Explore (参照)] ページが現在アクティブになっていて、プロジェクトまたはフォルダが選択されている場合、接続のデフォルトの場所はその選択されているプロジェクトまたはフォルダです。そうでない場合、デフォルトの場所は直近で保存されたアセットの場所です。
説明	オプション。接続の説明。
タイプ	必須。コネクタまたはサービスコネクタに使用する接続のタイプ。 [IICS Cloud Application Integration 電子メールサービス（使用ライセンスあり）] を選択します。
実行日時	必須。接続を実行する必要があるクラウドサーバー、Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンの名前。 注: 特定の Secure Agent で実行するように電子メール接続を設定およびパブリッシュする場合、別の Secure Agent で実行されるプロセスのサービスステップでその電子メール接続を呼び出すことはできません。
接続テスト	接続テストが成功したかどうかを示します。デフォルトでは、プロパティには接続テストの結果が表示されます。
OData 対応	電子メールコネクタではサポートされていません。

基本接続プロパティを設定した後、電子メール接続タイプに適用される追加の接続プロパティも定義する必要があります。

電子メール接続プロパティ

電子メール接続を定義して、電子メールサーバーから指定された受信者のリストに電子メールを送信できます。電子メールアプリケーション接続には、OAuth 2.0 認証またはパスワードベースの認証を使用できます。OAuth 2.0 認証は、Microsoft Outlook 電子メールアカウントにのみ使用できます。

場合によっては、複数の電子メール接続を定義する必要があります。例えば、大学内の各学部異なる SMTP ホストを使用することがあります。または、各ドメインが固有の SMTP 設定を持つ必要がある複数のドメインを設けることがあります。各 SMTP ホストに、個別の接続が必要です。

【IICS Cloud Application Integration 電子メール（使用ライセンスあり）] を接続タイプとして選択した場合、接続作成ページで電子メール固有の接続プロパティを設定できます。

パスワードベースの認証を使用して電子メール接続を作成するには、接続作成ページで次のプロパティを設定します。

プロパティ	説明
認証	必須。電子メール接続でパスワードベースの認証を使用する必要があるかどうかを指定します。 【有効化】 を選択した場合、電子メールコネクタは、電子メール接続プロパティに入力したユーザー名とパスワードを認証します。 【無効化】 を選択した場合、電子メールコネクタは認証を実行せず、電子メール接続プロパティに入力したユーザー名とパスワードを無視します。 デフォルトは 【有効化】 です。
ユーザー名	パスワードベースの認証を有効にする場合は必須です。パスワードベースの認証を無効にすると、電子メールコネクタは認証を実行せず、このフィールドに入力した値を無視します。 電子メールサーバーにログインするためのユーザー名を入力します。ユーザー名は、アカウント名または電子メールアドレスのいずれかです。例: notifyme@mydomain.com 注: 環境内の SMTP をパスワードベースの認証なしで動作するように設定した場合、ユーザー名とパスワードを入力しないでください。
パスワード	パスワードベースの認証を有効にする場合は必須です。パスワードベースの認証を無効にすると、電子メールコネクタは認証を実行せず、このフィールドに入力した値を無視します。 電子メールアドレスのパスワードを入力します。 注: 環境内の SMTP をパスワードベースの認証なしで動作するように設定した場合、ユーザー名とパスワードを入力しないでください。
セキュリティ	必須。電子メール接続で使用する必要のあるセキュリティプロトコルを指定します。 次のいずれかの値を選択します。 - なし。電子メール接続はセキュリティプロトコルを使用しません。 - TLS。電子メール接続は TLS プロトコルを使用します。 - SSL。電子メール接続は SSL プロトコルを使用します。 デフォルトは 【なし】 です。
接続タイムアウト	オプション。電子メールサーバーへの接続を試行するときに待機するミリ秒数を指定します。 デフォルトは 30000 ミリ秒です。 電子メール接続の使用中にタイムアウトが発生した場合、ネットワークおよびファイアウォールの設定を確認します。

OAuth 認証を使用して電子メール接続を作成するには、接続作成ページで次のプロパティを設定します。

プロパティ	説明
認証 URL	必須。ユーザー要求の認証に使用する電子メールサービスの OAuth 認証 URL を入力します。 例: https://login.microsoftonline.com/xxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxx/oauth2/v2.0/authorize
トークン要求 URL	必須。トークン要求を処理する OAuth トークン要求 URL を入力します。 例: https://login.microsoftonline.com/xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxx/oauth2/v2.0/token リフレッシュトークンの有効期限は 90 日です。ユーザーは、トークンの有効期限が切れる前に、再度認証して接続をパブリッシュする必要があります。
クライアント ID	必須。OAuth プロバイダからの識別子の値を指定します。

プロパティ	説明
クライアントシークレット	必須。電子メールアプリケーションに接続するためのクライアントシークレットを入力します。
スコープ	必須。スコープを指定します。OAuth 認証のスコープは、アプリケーションからユーザーのアカウントへのアクセスを制限するものです。1つのクライアントに対して複数のスコープを選択できます。複数のスコープを入力するには、各値をスペースで区切ります。 Microsoft Outlook 電子メールアカウントの場合は、次のスコープを入力します。 <code>https://outlook.office.com/SMTP.Send offline_access</code>
承認ステータス	現在のステータス、承認したユーザーの名前、最後に承認が完了した時刻を示します。
アクセスの承認	OAuth を使用した承認ワークフローを開始するにはクリックします。

注: OAuth プロバイダで、接続を作成する CAI POD のホストにリダイレクト URI を設定します。リダイレクト URI には、/oauthcallback 文字列が含まれている必要があります。例: `https://<Informatica Cloud Application Integration URL>/oauthcallback`

接続作成ページで次の共通プロパティを設定します。

プロパティ	説明
ホスト	必須。mail.mydomain.com などの電子メールサーバーの DNS 名、または、192.168.1.1 などの IP アドレスを入力します。
ポート	必須。プロセスサーバーと電子メールサーバーとの間の通信用のポートを入力します。デフォルトは 25 です。
電子メールアドレスのテスト	オプション。電子メール接続をテストするときにテストメッセージを送信する電子メールアドレスを入力します。 複数の電子メールアドレスはカンマで区切ります。
送信者電子メールアドレス	オプション。接続から送信する電子メールの【送信者】フィールドに表示する電子メールアドレスを入力します。例: no-reply@example.com

電子メール接続のパブリッシュ

電子メール接続を作成した後に、接続を検証、保存、およびパブリッシュできます。詳細については、「デザイン」を参照してください。

電子メール接続をパブリッシュすると、アプリケーション統合は【メタデータ】タブで次の項目を作成します。

sendEmailService

sendEmailService は、電子メールを送信するためにプロセスまたはガイドのサービスステップで選択する必要があるアクションです。

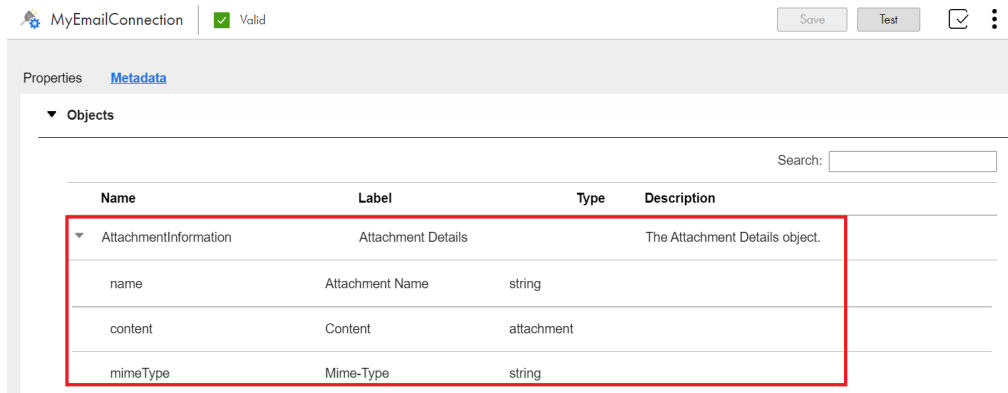
次の図は、sendEmailService アクションを示しています。



AttachmentInformation

AttachmentInformation オブジェクトは、電子メールで送信される添付ファイルを定義します。XQuery 添付ファイル関数を使用して添付ファイルを作成できます。添付ファイルの作成と使用の詳細については、次のリンクを参照してください: [Attachments](#)。

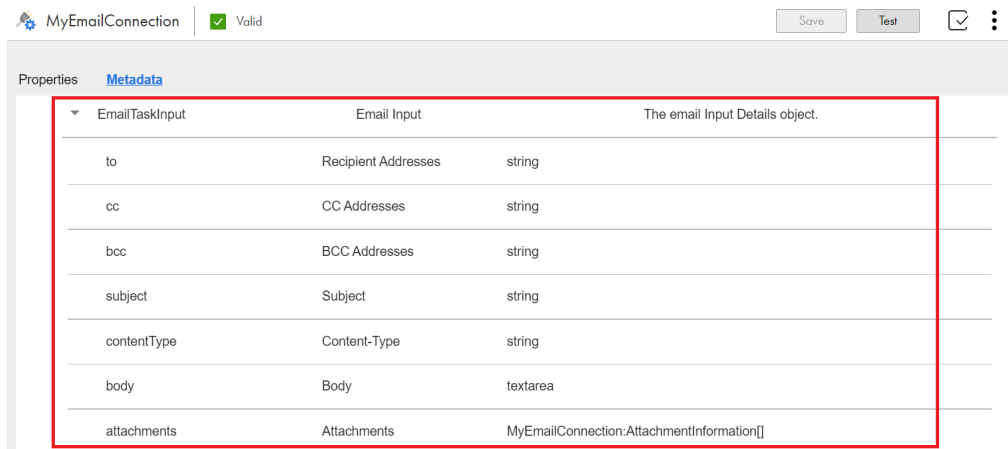
次の図は、AttachmentInformation オブジェクトを示しています。



EmailTaskInput

EmailTaskInput オブジェクトは、電子メールの入力を定義します。このオブジェクトは、受信者、電子メールの件名、電子メールのコンテンツタイプ、電子メールの本文、および添付ファイル情報を定義します。

次の図は、EmailTaskInput オブジェクトを示しています。

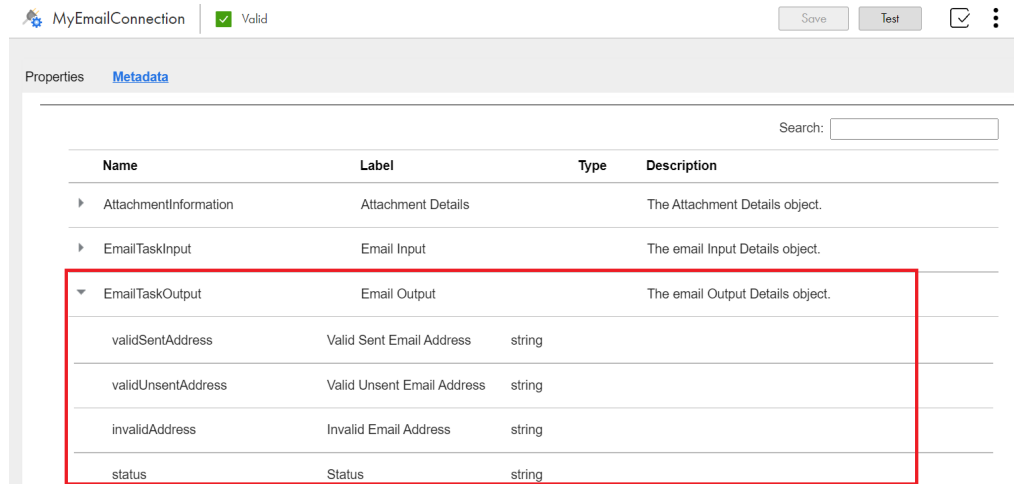


EmailTaskOutput

EmailTaskOutput オブジェクトは、sendEmailService アクションの応答を定義します。このオブジェクトは、電子メールが正常に送信されたかどうかを定義し、次の詳細も一覧表示します。

- 電子メールの送信先の電子メールアドレス。
- 有効であっても、電子メールが送信されなかった電子メールアドレス。
- 無効な電子メールアドレス。

次の図は、EmailTaskOutput オブジェクトを示しています。



MyEmailConnection | Valid | Save | Test | [Checkmark] | [Menu]

Properties Metadata

Search: [Input]

Name	Label	Type	Description
AttachmentInformation	Attachment Details		The Attachment Details object.
EmailTaskInput	Email Input		The email Input Details object.
EmailTaskOutput	Email Output		The email Output Details object.
validSentAddress	Valid Sent Email Address	string	
validUnsentAddress	Valid Unsent Email Address	string	
invalidAddress	Invalid Email Address	string	
status	Status	string	

プロセスまたはガイドでの電子メールオブジェクトの使用

プロセスまたはガイドで電子メールオブジェクトを使用するには、次の手順を実行します。

1. 電子メールオブジェクトを割り当てるフィールドを作成します。
2. **【タイプ】** リストで **【タイプをさらに表示】** を選択します。
3. **【カテゴリ】** リストで **【定義された接続タイプ】** を選択します。
4. **【接続】** リストで、電子メール接続を選択します。

5. 次の図に示すように、[タイプ] セクションで、必要な電子メールオブジェクトを選択します。

Dialog box titled "Edit Type" with a close button (X) in the top right corner.

Category:

Connection:

☐ The Field can be one of several types.

Types

☐ Attachment Details

☒ Email Input

☐ Email Output

☐ Allow a list of objects of this type.

Buttons: OK, Cancel

次に、プロセスまたはガイドの電子メールオブジェクトフィールドに値を割り当てることができます。

プロセスまたはガイドでの電子メール接続の使用

電子メール接続を作成した後、プロセスまたはガイドのサービスステップで使用できます。

プロセスまたはガイドで電子メール接続を使用するには、次の手順を実行します。

1. プロセスまたはガイドにサービスステップを追加します。
2. [サービス] タブをクリックします。
3. [サービスタイプ] リストから、[接続] を選択します。
4. [接続] リストから、作成した電子メール接続を参照して選択します。
5. [アクション] リストで、電子メール接続がパブリッシュされたときに作成された **sendEmailService** アクションを選択します。アプリケーション統合は、入力フィールドの下で **emailTaskInput** オブジェクトと出力フィールドの下で **emailTaskOutput** オブジェクトを読み込みます。
次の図は、電子メールを送信するサンプルのサービスステップを示しています。

 sendEmailService Properties

General
Service Type: Connection
Connection: EmailConnectionAndProcessForCAI > MyEmailConnection
Action: sendEmailService
Description: No description
Input Fields
Fault Handling
Timer Events
Message Events

Name	Required	Type
emailTaskInput	<input checked="" type="checkbox"/>	Object_ID_(MyEmailConnection:EmailTaskInput)

Name	Type
emailTaskOutput	Object ID (MyEmailConnection:EmailTaskOutput)

6. **【入力フィールド】** タブをクリックします。
7. 電子メールメッセージのコンテンツを **【emailTaskInput】** フィールドに設定します。
複数の受信者に電子メールを送信するには、電子メールアドレスをカンマで区切ります。
8. 必要に応じて、電子メールの添付ファイルと出力フィールドを設定します。
9. プロセスまたはガイドを検証、保存、パブリッシュ、および実行します。